

道連ニュース

2025年1月号 No.217

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

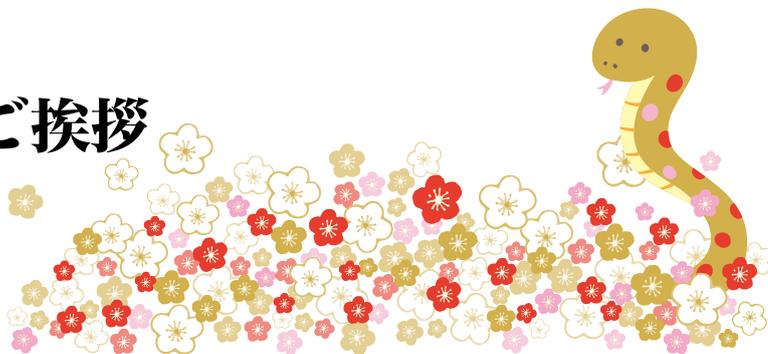
URL: <http://www.doren.coop>



新年のご挨拶

会長理事

中島 則裕



新年あけましておめでとうございます。

2025年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年も、会員生協の皆様のご事業活動への貢献を通して、北海道の暮らしに貢献できるよう、役員一同、全力で取り組んでまいりますので、ご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年は、大谷翔平選手の2年連続MVP受賞やパリオリンピックでの日本人選手の活躍など、明るい話題があった一方で、大規模な自然災害の増加やウクライナやガザなど国際紛争の情勢など、社会不安が長期化、深刻化する状況が続きました。北海道においても、少子高齢化や人口減少、人手不足といった課題が深刻化し、地域社会の持続可能性が問われています。

このような状況下において、北海道生協連は、会員生協の皆様とともに、地域に根ざした活動に取り組み、北海道の暮らしの向上に努めてきました。

2024年度は、会員生協の事業活動が活発化する中、北海道生協連が事務局を務める「こども食堂北海道ネットワーク」「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」「協同組合ネット北海道」といった取り組みが大きく進展し、協同組合間の連携がますます深まりました。また、10月に開催された「北海道・東北地区 行政・生協連絡会議」では、視察を行ったコープさっぽろが展開する多岐にわたる社会貢献活動の実践が、行政機関から先進的な取り組みとして高く評価されるなど、その成果が注目を集めました。

2025年は、国際協同組合年（IYC2025）であり、世界中で協同組合の重要性が再認識される年となります。北海道生協連は、この機会を捉え、会員生協の皆さまと北海道における協同組合のさらなる発展を目指し、以下の活動に力を入れてまいります。

●**子ども食堂の拡充**：道内全域で子ども食堂が500カ所（現在360カ所）に拡がり、すべての子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを応援するため、子どもの居場所づくり応援基金を設立し、事務局として支援します。

●**若者支援の強化**：学生の主体的なボランティア活動を全面的に支援し、地域社会との結びつきを深めます。多様な活動の機会を創出し、学生の自主性を尊重することで、より豊かな地域社会の実現に貢献します。

●**協同組合ネット北海道の活性化**：各協同組合が持つ強みを結集し、道産食材のカレーパン販売や子どもたちのための支援基金設立といった、地域社会に活力を与える事業を支援します。国際協同組合年の機運を高めながら、北海道の協同組合運動をさらに発展させ、より豊かな地域社会の実現を目指します。

●**消費者問題への取り組み**：消費者の権利を守るため、情報発信と政策提言を積極的に行い、LPガス問題をはじめとする消費者課題解決に向けて、会員生協をはじめ消費者協会や消費者支援ネットとの連携を強化します。

●**地域社会との連携**：会員生協や協同組合ネット北海道の参加団体と連携し、地域課題解決に向けた協働活動の企画・運営を支援します。あわせて、行政やNPOなど、多様な主体とのネットワーク構築に協力し、協働活動の事務局として支援します。

また、2026年には北海道生協連創立70周年を迎えます。この節目を機に、北海道の協同組合運動を次の世代へと引き継ぎ、より一層発展させていくため、記念事業を企画しております。

本年も、会員生協の皆様が、地域に根ざした事業活動において一層ご活躍されますよう、心よりお祈り申し上げます。

ほっかいどう若者応援★ 学生プロジェクト活動報告

コープさっぽろ

「食べる・たいせつ
フェスティバル2024」に
ブース出展!

～『野菜を使った世界で一つの
オリジナルバック作り』～

北海道もすっかり冬景色となり、
本格的な寒さがやってきましたね。

「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」では、11月23日(土)に大和プレミストドームで開催された「食べる・たいせつフェスティバル2024」に、野菜スタンプを使ったオリジナルエコバッグ作りのブースを出展しました。

昨年、道内8会場で開催され、20,301人が来場した大人気のこのイベント。今年は、多くの子どもたちと保護者の皆さまにご来場いただき、私たちのブースも大盛況でした。予約枠はすぐに埋まり、キャンセル待ちが出るほど。当初予定していた回数よりも多くのエコバッグ作りを実施することになり、子どもたちの熱気に圧倒されました。



野菜の形や色を活かしたスタンプ、そして野菜で作ったクレヨンを使って、子どもたちは思い思いのエコバッグ作りを楽しんでいました。説明通りにスタンプを押す子、私たちが驚くような使い方をする子、様々な色を組み合わせてオリジナルの色を作る子など、子どもたちの創造性には本当に驚かされました。

子どもたちと一つひとつ丁寧にエコバッグを作りながら、私たちは「食」の大切さだけでなく、創造性や表現することの楽しさを改めて感じました。子どもたちの笑顔や、「見て見て！私が作ったよ！」という言葉が、私たちの心に温かい光を灯してくれました。

今回のイベントを通して、私たちは子どもたちとの触れ合いの中で、たくさんのことを学びました。子どもたちの無限の可能性を感じるとともに、私たち自身も成長できたと感じています。

今後も、様々な活動を通して、子どもたちが「食」に興味を持ち、豊かな心を育むことができるような場を創出していきたいと考えています。大人から子どもまでが世代を超えて交流できるような、そんな温かい社会の実現を目指し、私たちも共に成長していきたいと思えます。

今回の「食べる・たいせつフェスティバル2024」への参加は、私たちにとって貴重な経験となりました。子どもたちとの触れ合いを通して、私たちもまた、大きく成長することができました。今後も、地域社会に貢献できるよう、様々な活動に積極的に取り組んでいきます。



11/5 11/14 福祉灯油要請行動・灯油意見交換会の報告

2024年11月5日(火)、燃料油激変緩和措置の終了が予定される中、コープさっぽろとともに北海道に対し、福祉灯油の拡大を要請しました。経済的弱者への負担増を軽減するため、すべての市町村で福祉灯油を実施するよう求めました。

道内では23年度146自治体(前年度143)で福祉灯油を実施していますが、札幌市など主要都市は未実施です。灯油価格の高騰は家計への大きな負担となっています。「福祉灯油助成の財源含め検討中」とのことでした。

11月14日(土)の灯油意見交換会では、政府の今後の対応は明らかになりませんが、12月2日、地方創生臨時交付金メニューとして灯油支援の取組を市町村に働きかける文書が発表されました。



令和6年度 協同組合ネット北海道 公開講演会のお知らせ

●テーマ:
『スマート農業による北海道農業の今後の展望』
～普及に向けた協同組合の役割～

●講師:
北海道大学大学院
農学研究院長 野口伸教授

●開催日時:
令和7年2月20日(木)
13:30～15:00

●開催形式:
ウェビナーを活用した
オンライン講演会
(参加費無料、定員500名)

※申込締め切り2月14(金)



申込用QRコードです。